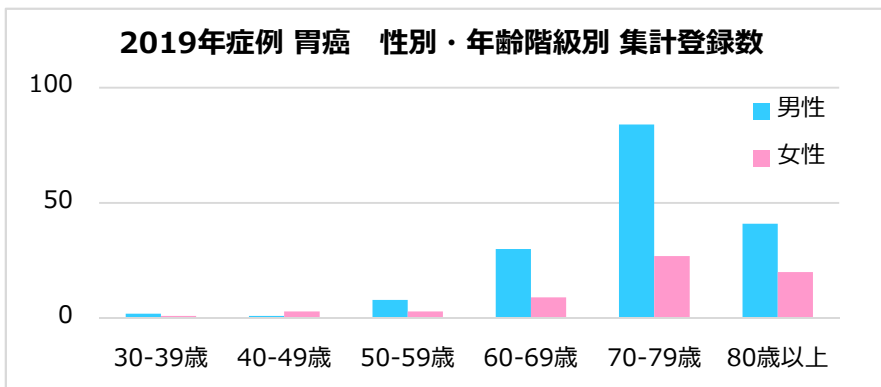
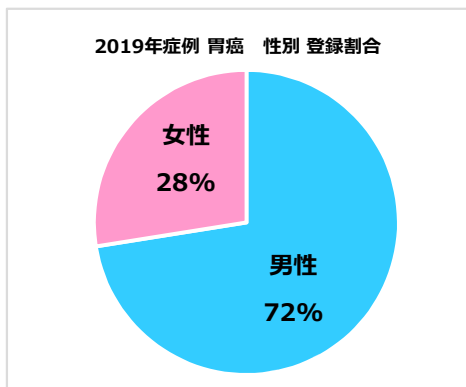
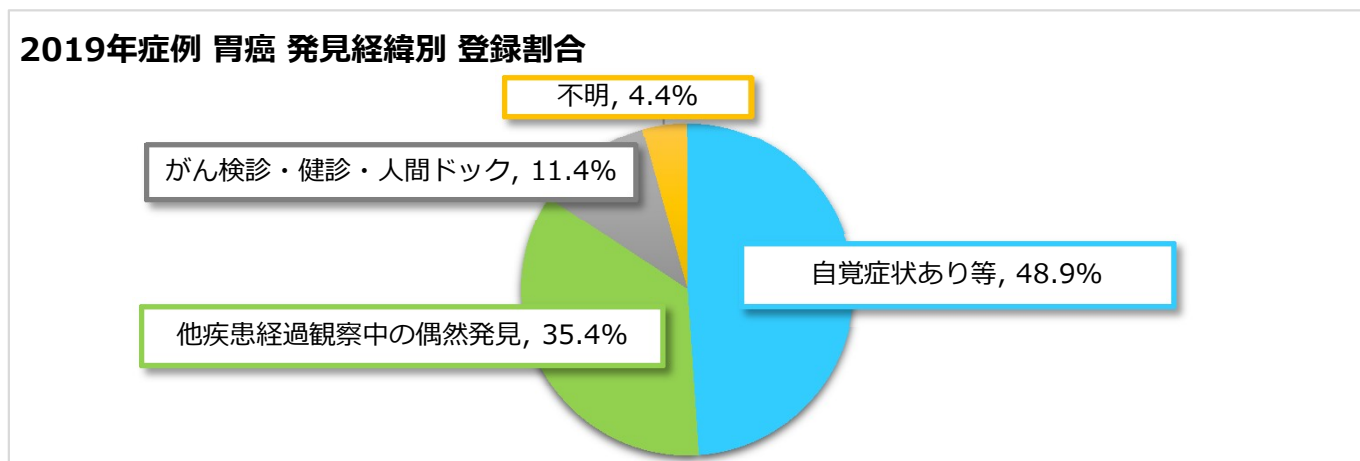
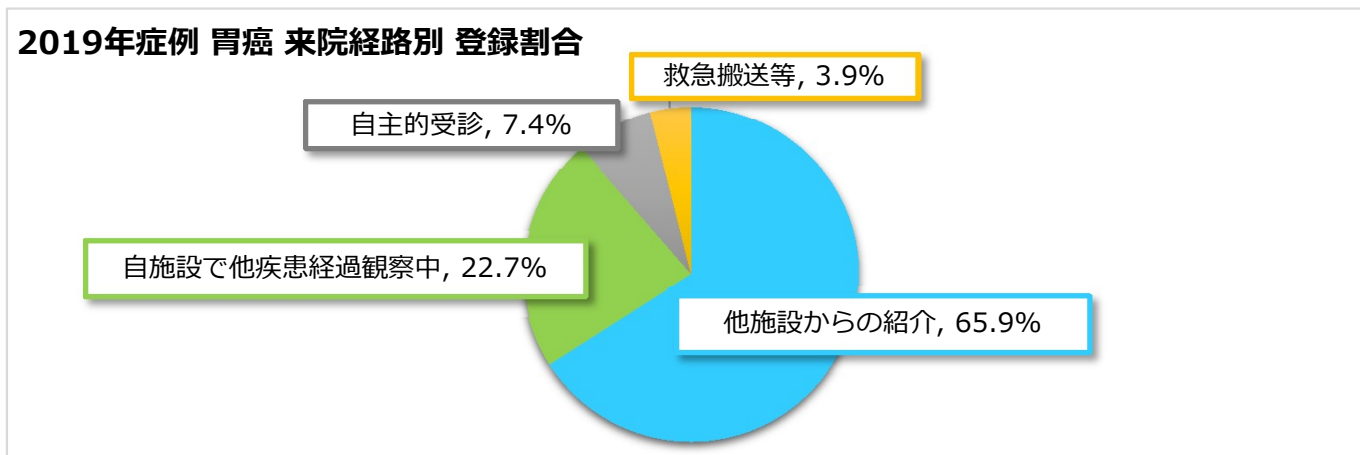
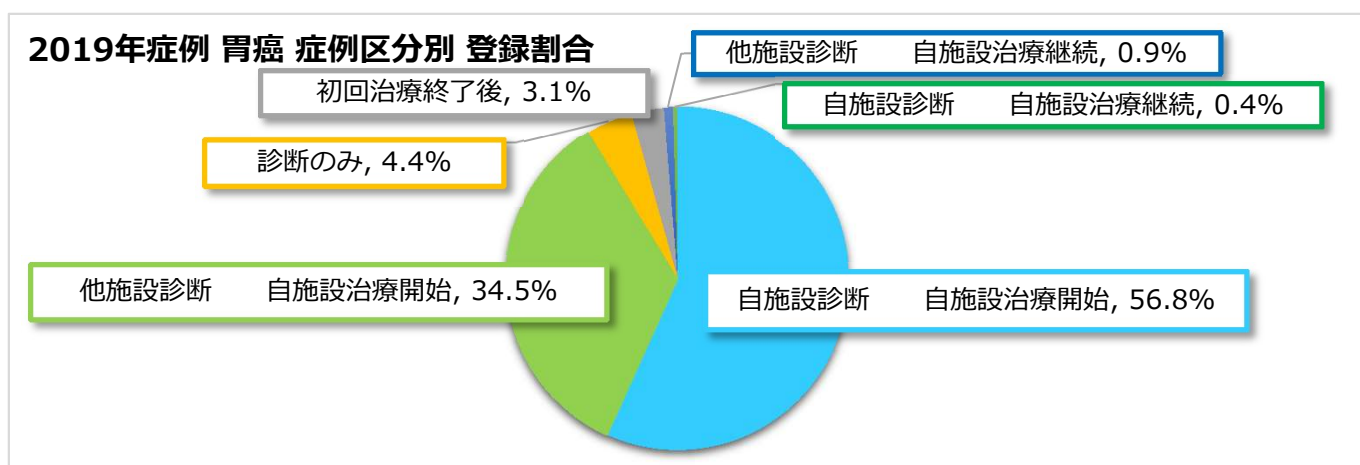


2019年症例 胃癌

1 性別・年齢階級別 (セカンドオピニオン等除く)

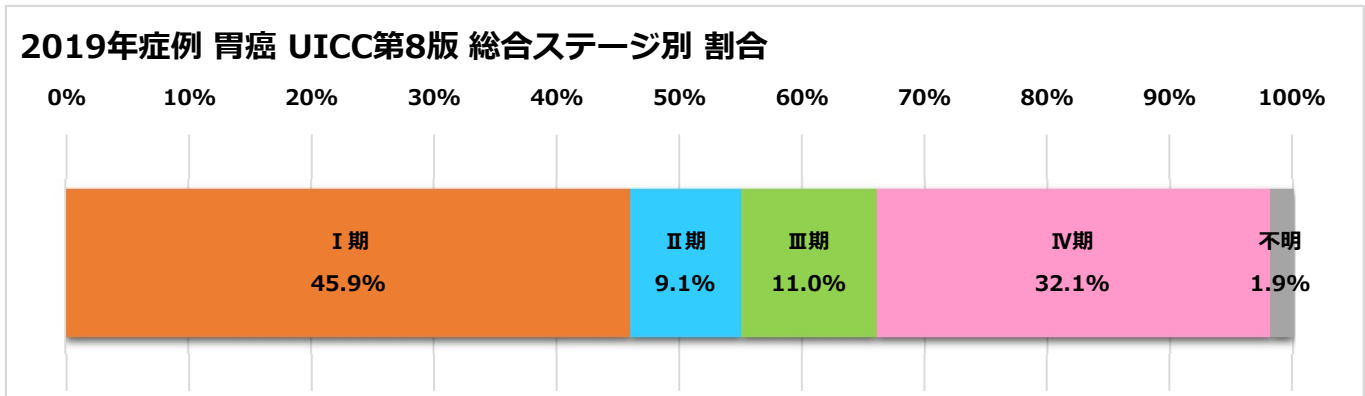


2 症例区分・来院経路・発見経緯 (セカンドオピニオン等除く)

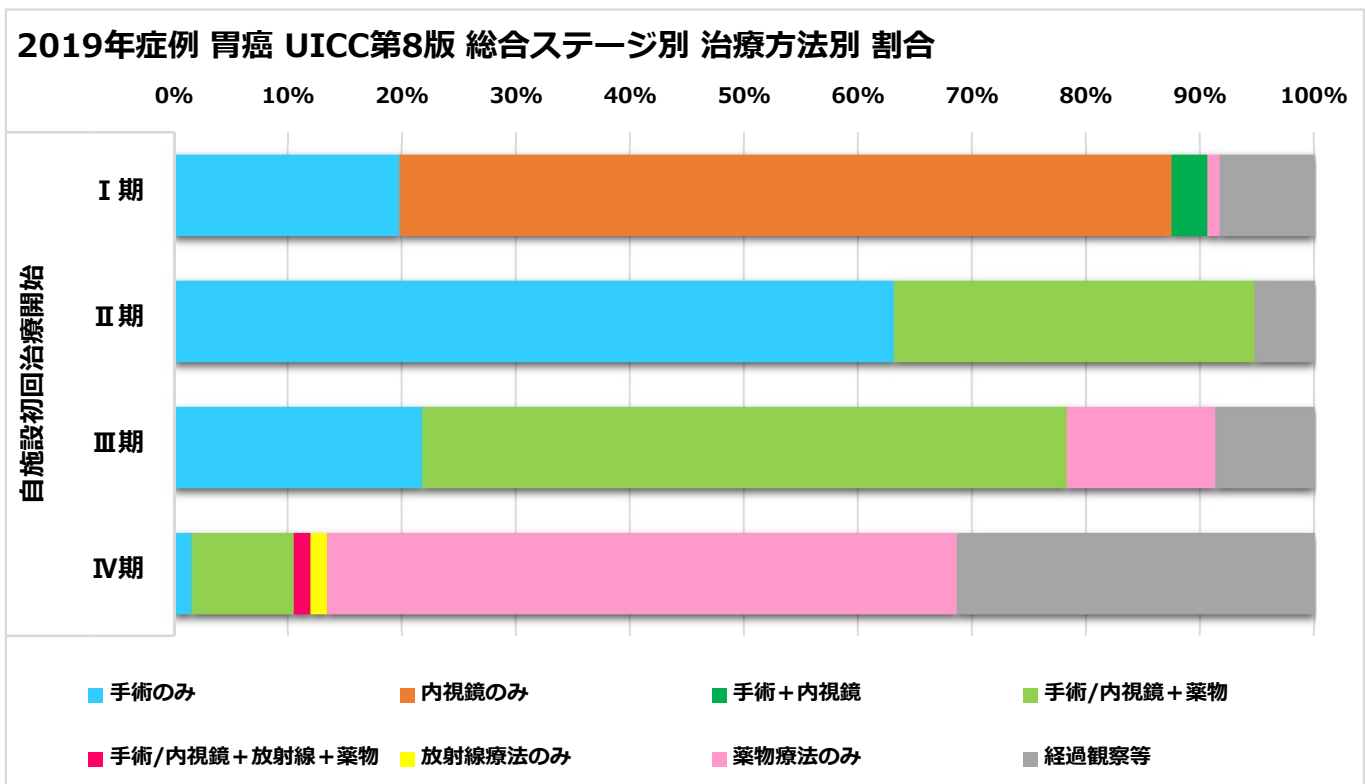


3 UICC第8版 総合ステージ

- ※当院で初回治療を開始した症例のみを集計した資料になります。診断のみの症例、他施設からの継続症例、初回治療終了後の緩和医療等に該当する症例は含みません。
- ※他院で初回治療を開始した後に当院で行った治療や再発時の治療は含みません。
- ※国際疾病分類（UICC第8版）及び院内がん登録のルールに従い集計しています。一般に用いられている取扱い規約分類と異なる場合があります。
- ※総合ステージとは、臨床ステージに術後病理学的結果を加味したステージであり、がんの治療開始時におけるもっとも確からしいステージを示しています。
- ※国立がん研究センターがん情報サービスの「院内がん登録全国集計結果閲覧システム」の施設別集計値と異なる可能性があります。（初回治療実施期間等の定義の違いによる）

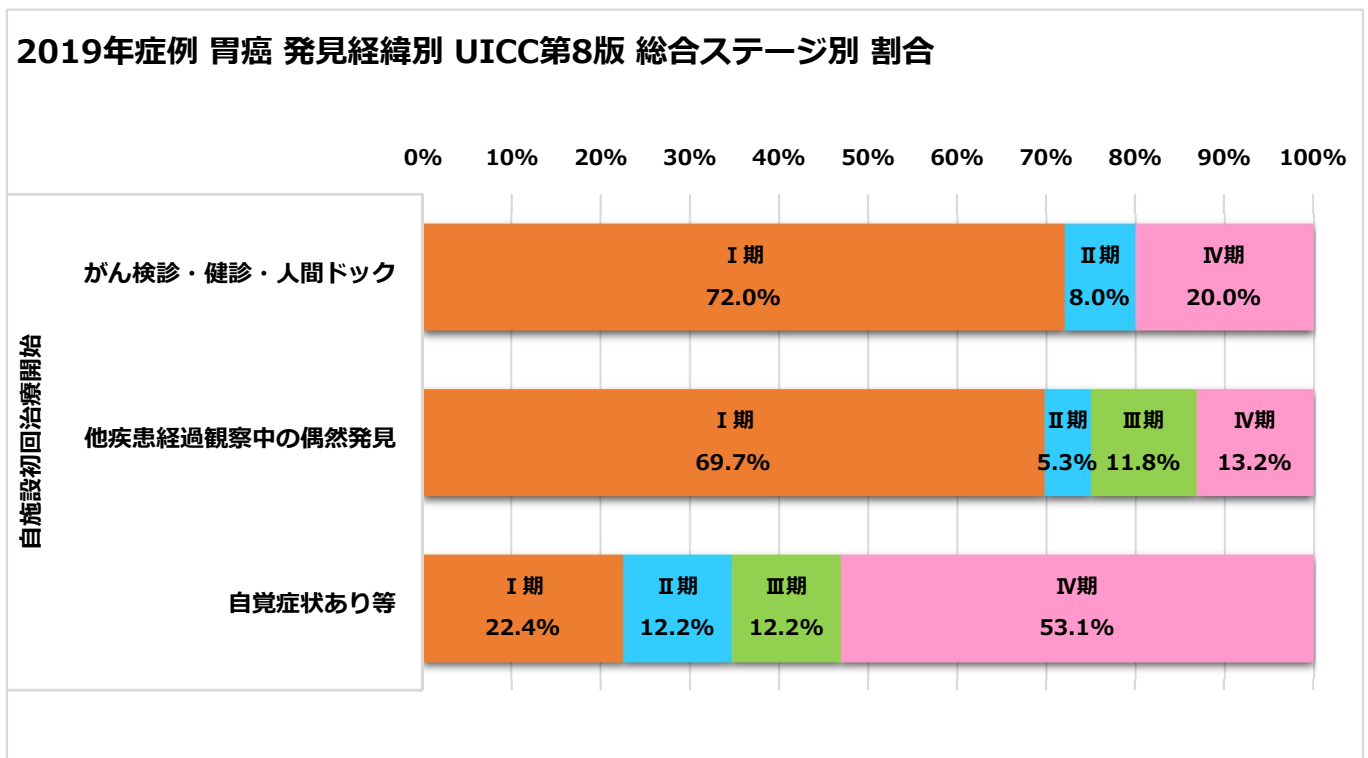


がんの進行度の程度は、「病期（ステージ）」として分類し、ローマ数字で表記することが一般的です。胃癌は、早期から進行するにつれてI期～IV期に分類されます。



胃癌の治療には、内視鏡的治療、手術、薬物療法などがあります。治療法は、がんの進行の程度、全身状態、年齢、希望などを考慮して決めていきます。

4 発見経緯とステージ



上のグラフは、当院で初回治療を開始した胃癌症例について、発見経緯別にがんの進行度を示したものです。「がん検診・健診・人間ドック」と「他疾患経過観察中の偶然発見」の場合は、I期での発見が約7割なのに対し、「自覚症状あり等」の場合は、I期での発見は約2割であり、半数がIV期までがんが進行してから発見されています。このことから、胃癌の早期発見には「がん検診・健診・人間ドック」が有効であるといえます。

国は、がん検診の効果について評価を行い、がんによる死亡を減らすことができると科学的に認められた5つのがん検診を市町村の事業として行われるよう、指針を示しています。「胃がん検診」はそのうちの1つで、検査方法は「胃部X線検査」又は「胃内視鏡検査」です。「胃がん検診」の対象となる年齢、実施時期、実施場所、検査方法、費用負担等は、お住いの市町村にご確認ください。なお、「胃がん検診」により精密検査が必要（要精検）と判定されたら、必ず精密検査を受けてください。「症状がない、元気だ」といった理由で精密検査を受けないと、がんを放置してしまう可能性があります。

君津中央病院の人間ドックでは、基本項目として「胃部X線検査」を、オプション項目で「胃カメラ（内視鏡検査）」「ピロリ菌検査（便）」を行っています。がんの早期発見のみならず生活習慣病を予防し、明るい毎日を過ごすためにも、人間ドックを受診しましょう。

「がん検診・健診・人間ドック」における検査は、病気の症状がない人が対象で、がんを早期発見するためのものです。胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合には、すぐに医療機関を受診してください。

当院を受診する際には、かかりつけ医の紹介状や検査結果をお持ちくださいますようお願いいたします。

<君津中央病院人間ドックのご予約方法>

直接ご来院いただくかお電話にてお申し込みください。

- ・受付場所：2階公衆衛生科人間ドック受付
- ・電話：0438-36-1071（内線2804）
- ・受付時間：平日 10時～16時

詳しくは、「人間ドックご利用のご案内」をご覧ください。